

(仮称) あしなが京都志塾／心塾 検討案

現在、向島二の丸小学校の敷地を候補地として、あしなが育英会の運営する「(仮称) あしなが京都志塾／心塾」の検討を進めています。アフリカ出身の遺児学生、日本の遺児大学生を中心に生活を送りながら学ぶ場となり、周辺住民にも親しまれる場となることを想定しています。運営や管理の観点から明快なゾーニングを行いながらも、人々の交流が活発に生まれるようなデザインを目指します。遺児学生の学生寮である「あしなが志塾、心塾」はできる限り早い時期のオープンを目指しており、建設のみならず運営面などの検討も進めています。

将来的には主に4つのプログラム「あしなが志塾（アフリカ出身学生の学生寮）」「あしなが心塾（日本の大学に通う学生寮）」「市民に開かれた場」「(仮) アフリカ博物館」が機能する施設となることを目指し、下記の概要をもとに検討を進めていきます。

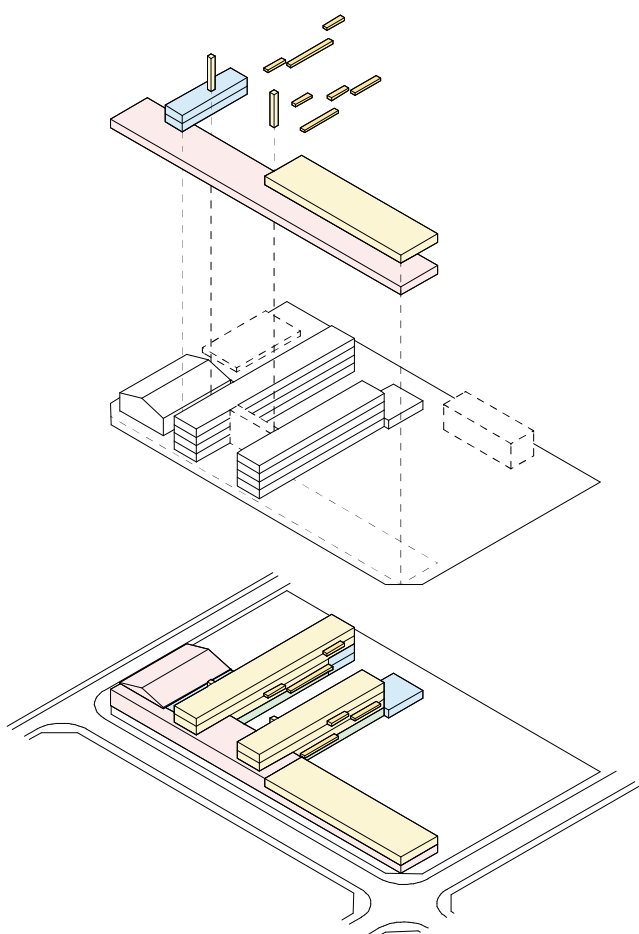
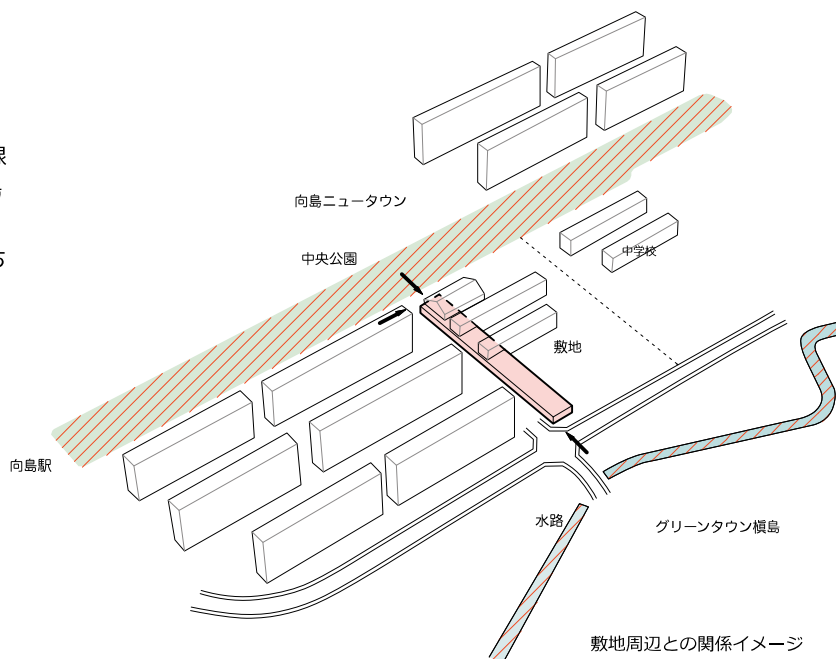
「敷地周辺への配慮について」

敷地の北側に面する中央公園の環境（樹木や水路などの自然環境）をできるだけ敷地に取り込みつつ、駅からの動線などに配慮し、周辺住民の方々にとっても馴染みやすい場を目指します。

元小学校跡地という特性を活かしながら、地域社会のまちづくりにも寄与できる場を地域の方々との対話を通してつくっていくことを目指します。

「既存校舎の利活用について」

既存の建物については、北、南校舎を活用し、体育館も躯体を中心に活用することを想定します。その他、既存の樹木など敷地内の資産についても、測量等を行った上、できる限り活用できるように慎重に検討していきます。



敷地配置計画のイメージ

- ①／② 共有／研修室など
- ③ 寮室
- ④ 管理／サービス

①あしなが志塾（こころざしじゅく）を中心とした多様なプログラムを受け入れる帯

研修室など、学生が授業を受けられる大小の部屋を配置し、周辺住民をはじめとして、多文化、多世代の人々との交流を通して相互に学べる場を目指して検討を進めていきます。

②住環境を豊かにし、交流を生む仕掛け

テラスやラウンジなどを分散配置して均一的な寮室を並列するのではなく、より活発な交流を生む場として検討していきます。

③アフリカ出身学生／日本の大学生の生活に適した寮室

集中して勉強ができる環境と自分以外のバックグラウンドを持つ人々との共同生活を通じて学ぶことの出来る場を目指します。滞在期間、カリキュラム等も考慮し、柔軟性を持った計画を目指しています。

④事務／管理ゾーン

あしなが育英会の活動の関西拠点として、管理、事務ゾーンが機能するように検討しています。